



陸軍少將正五位勳四等田坂虎之助
勳二等^ニ敘^シ旭日重光章下賜ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

明治三十九年六月二十九日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望

内閣

内閣書記官室 第 一五九 番

明治卅九年六月廿七日

内閣書記官

内閣總理大臣 望

内閣書記官長 為

賞勳局總裁へ訓令按

今般特旨ヲ以テ陸軍少將正五位勳四等田坂
虎之助勳二等ニ敘シ旭日重光章下賜ニ付
諸事取計スヘシ

六月三十日

内閣總理大臣

裏面白紙

陸軍少将正五位勲四等 田坂虎之助

右明治八年十月陸軍少尉に任せられ以來教官に歴進し現官に至り
豫備仰付られたるも引續き三角測量事業に嚆矢を此間教十年
斯業に一身を委ね殊に三角測量に就ては本邦に於ける創業者
ナリ抑三角測量の事たる複雑多岐の業に於て獨佛の如きを教十
年、勞費を賭し漸く今日法式を得本邦に於て明治四年工部省
に測量司を置き英國より十数名の技師を僱聘し此事業に着手
し後予内務省に移り前後十数年約百万餘圓を費せしむる好果を得
ルに至る同十七年内務省より陸軍省に引継ぎ陸地測量部其事
業に任し以來一失計なく最も精確ナル成績を以て事業を進行
し今日全國に一等三角測量を了らんとすに到りたるも一人の力ナリ
同人の獨逸留学中量地學を専修し研精七年將に其業を卒
へんとすや恰も我測量部の三角測量に必要を生じ同人を召還し歸
朝後三角科長に任せられ當時測量部は未だ三角測量の學術に
修得せしむる無きを以て測量の教育、事業設計、法式、制度
に至るまで一身を担ひ遂に現時に如く歐米を凌ぎ完全ナル三角測量
ヲ為し得たるハ二十有五年間熱中精勵の結果に於て其功績太
偉大ナリ又今回戰役に關し臨時測圖部を編入せし経緯度班の
業務を設計し其方法を草案し其任務を以て遺憾ナカラレタリ
其功績顯著ナリトス今ヤ斯業完成に近ク同人を不日解任セントス
依り此際特勲二等に叙し旭日重光章ヲ授ケラレ度懷歷書ヲ
具し

謹テ奏ス

明治三十九年五月十一日

陸

軍

陸軍大臣寺内正毅



205

裏面白紙

本籍 東京市神田區神田柳町壹番地
現住所 東京市赤坂區青山南町六丁目百六番地

田坂虎之助
嘉永三年十月三日

陸軍出身前履歷

明治三年十一月一日

一伏見滿宮殿下普國御勤學、升大政官ヨリ同宮隨從被命

同 四年一月十五日

一伏見滿宮、隨從橫濱港出發同年三月二日獨逸柏林府に着

同 六年十二月一日

一文部省ヨリ海外留學被差免爾後自費留學

同 八年八月

陸軍

一獨逸國陸軍高等試驗委員、試験、及第又

陸軍出身後履歷

明治八年十月十七日

一陸軍少尉

同 年 左月廿五日

一普國在留兵學修業被命學費一ヶ年金壹千圓宛下賜

同 九年 四月廿日

一正八位

同 十一年 八月廿三日

一陸軍中尉

同 十三年 二月廿日

一從七位

同 年 十二月廿七日

一陸軍工兵大尉

同 十四年三月十六日

一正七位

同 十五年五月一日

一帰朝被命

同 年九月四日

一獨逸國出發十月三十日帰朝

同 年十一月十三日

一参謀本部課僚

同 年同月廿一日

一一等給

同 十七年九月十日

一免本職参謀本部測量局三角測量課長心得

陸

軍

同 十八年三月廿八日

一陸軍工兵少佐

同 年四月一日

一参謀本部測量局三角測量課長

同 年五月七日

一従七位

同 十九年三月廿九日

一本初子午線並ニ計時法審査委員

同 二十年一月廿五日

一改正英語字書審査委員

同 年三月廿三日

一獨逸國皇族來航ニ付接待掛

同 年四月七日

一兼建築局三等技師

同 年同月同日

一奏任官三等

同 年四月八日

一兼官下級俸三分二下賜

同 年同月十六日

一學國建築參事官多摩川沿岸巡回之舟差添被命

同 年六月四日

一免兼官

同 年十月廿一日

一萬國測地學協會加入審査委員

同廿一年五月十四日

一陸地測量部三角科長

陸

軍

同廿一年九月一日

一東京市區改正委員

同廿二年四月廿日

一萬國測地學協會委員

同 年十一月二日

一陸軍工兵中佐

同 年十一月廿九日

一憲法發布紀念章授受

同廿四年十二月廿一日

一正六位

同廿七年三月九日

一大婚廿五年祝典章授受

同廿八年五月四日

一大本營附

同 年五月六日

一東京出發同七日京都着

同 年同月十二日

一陸軍工兵大佐

同 年同月十七日

一御用有之東京へ出張ヲ命ス同十九日京都發同二十日東京着

同 年六月十日

一大本營附ヲ免ス

同 年同月同日

一陸地測量部三角科長

同 年十一月十五日

一從五位

陸軍

同 年八月十八日

一明治廿七年戰役從軍記章授與

同 年九月十一日

一東京市區改正委員被免

同 年五月廿三日

一測地學委員會委員

同 年四月十一日

一正五位

同 年五月五日

一陸軍少將

同 年同月同日

一豫備被御舟

同 年五月六日

一陸地測量部三角科業務ヲ囑託ス

同 年同月廿一日

一測地學委員會委員被免

同 年同月同日

一測地學委員會臨時委員被仰付

賞典

一伯林千八百八十三年三月三十日序魯西國赤鷲第四等勲章ヲ授與セラル

一明治十五年十二月廿八日序魯西國赤鷲第四等勲章佩用允許

一伯林千八百八十七年六月三十日序魯西國王冠第三等勲章ヲ授與セラル

一明治廿年十二月廿一日序魯西國王冠第三等勲章佩用允許

一明治廿一年十二月廿七日敘勲大等賜瑞寶章

一明治廿六年十二月廿九日敘勲五等賜瑞寶章

陸軍

一明治廿八年十月廿一日明治廿七八年戰役功ニ依リ勲四等旭日小綬章及金

琴百四ヲ授ケ賜フ

陸軍部 勅 一五九 號

勅 四三三七 號

一陸軍少將田坂虎之助叙勳ノ件
右進達 矣也

明治三十九年五月十日

陸軍大臣寺内正毅



内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

陸軍

裏面白紙